

研究・調査報告書

報告書番号	担当
4 3	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>The influence of alcohol consumption and hepatitis B and C infections on the risk of liver cancer in Europe.</p> <p>飲酒・B型肝炎・C型肝炎の肝臓癌に対するヨーロッパでの影響</p>	
執筆者	
Ribes J, Cleries R, Esteban L, Moreno V, Bosch FX.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Hepatol. 2008 Aug;49(2):233-42.	
キーワード	
飲酒、B型肝炎、C型肝炎、肝臓癌、ヨーロッパ、死亡率	
要 旨	
<p>背景/目的： B型肝炎、C型肝炎、飲酒量と肝臓癌の危険性の変動を2002年にヨーロッパで調査した。</p> <p>方法： 一般住民を対象とした癌登録から発症データを得、死亡率、B型肝炎、C型肝炎、飲酒量をWHOデータベースより得た。肝臓癌発症の相対危険度と1より大きな後ろ向き確からしさをBayesian無作為効果モデルより得て地図に書き込んだ。</p> <p>結果： B型肝炎有病率が2%より大きく上昇すると肝臓癌進展の危険性が男性で15%、女性で25%増加した。C型肝炎有病率が2%より大きく上昇すると肝臓癌進展の危険性は男性で54%、女性で33%増加し、11Lより多い純アルコール摂取で肝臓癌進展の危険性が男性で26%、女性で14%増加した。(いずれも統計的に有意だった。) こうした危険因子は男性では肝臓癌死亡増加に働いたが、女性ではB型肝炎と飲酒量は有意なものではなかった。ハンガリー、モルドヴァ、ルーマニア、クロアチア、ギリシア、イタリア、スペイン、フランス、オーストリア人では男女ともにB型肝炎、C型肝炎、飲酒量を調整した後の肝臓癌の危険性が有意に大きかった。</p> <p>結論： ヨーロッパでは南から北、東から西方向に肝臓癌の危険性の低下の勾配が見られた。B型肝炎、飲酒量、そして主にC型肝炎はそれぞれ独立した肝臓癌の危険因子であり、これがこの地理的な勾配の説明になりうるであろう。</p>	